



8月21日(木)「夏休み宿題お助け
広場」の様子と協賛団体紹介(右)



やま

福島県公立学校退職校長会耶麻支部
広 報
発行日 令和8年2月28日
発行者 支部長 阿部 充也

巻頭言 懐かしい思い出



副支部長 大場 健哉

小学校教諭の免許を通信教育で取得しましたが、玉川大学での1か月間のスクーリングで出会った一人の青年とおばあさんは、今でも忘れることのできない人です。

青年は、大手商社マンでしたが、教師になる思いを断ち切れず実家の父親にそのことを伝えたところ、「何をばかなことを言っているんだ」の一言。しかし、教師への夢はどんどん募るばかりで、ついには、大手商社を辞め、父親からは勘当され今に至っているとのこと。

私は信じられませんでした。日本でも屈指の商社に勤務し、高給料・高待遇で何の不自由もなく海外勤務も経験している人が、なぜ教師を目指すのかと。

もう一方のおばあさんは、なんと60歳を過ぎた年齢です。女学校時代に教師になることを夢見ていたのですが、あまり裕福な家庭ではなかったために大学に進学することができず、教員免許をとれないまま今になってしまった。現在は、子どもと孫に恵まれ、何不自由ない生活ができるようになったので若かりし頃に抱いた自分の夢を叶えるためにここで学んでいるとのこと。教員免許を頂いても教壇に立って子どもたちとは一緒に過ごせないだろうけれど、夢に見た教員免許状をしっかりと携えてお墓に入ることはできる。教員免許状を頂くことが、今の自分にとっての一番の夢だからとのこと。

この二人の方となぜかいつも一緒の席で講義を受けていましたが、大学時代に近所の小学生と隠れんぼや鬼ごっこ、縄跳びなどで楽しく遊んでいたことから、将来は子どもたちと過ごせる小学校の教員になろうかなとの思いで通信教育を受けている自分という人間が、ほんとにちっぽけに思えてなりませんでした。

大手商社を辞め、父親に勘当されてまで教師を目指す人。

高校時代の夢を叶えた教員免許状をもって現世を旅立とうとする人。

私には大きな衝撃でした。40年以上も前のことですが、この痛烈な刺激は、「中途半端はだめ」という「くい」を私の中に打ち付けました。 [次ページに続く]

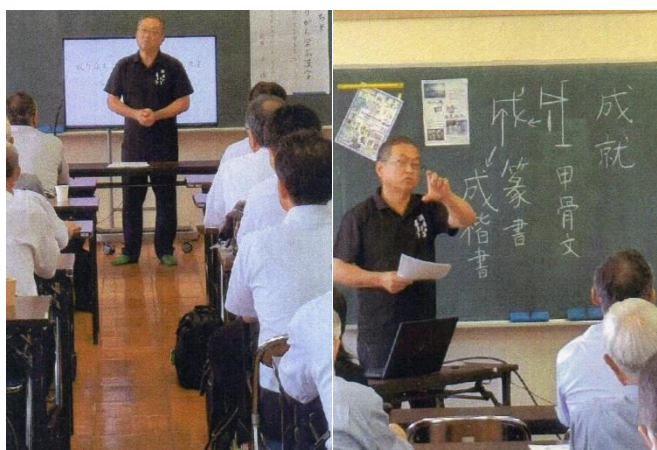
現在は、畑仕事を営みながら、野菜の出来に一喜一憂しながら過ごす日々ですが、畑づくりや地区の様々な付き合いの中でもこの「くい」を大切にしながら生活しようと思っています。

生涯部活動報告

生涯部長 佐藤めぐみ

◎教育懇談会

参加者 現職 26名 退職 21名
 期 日 8月21日(木) 15:00~16:30
 会 場 喜多方市立第一小学校
 内 容 講話及びグループ懇談の二部構成
 講話「成り立ちとつながりから学ぶ漢字」
 ～白川静の文字学に基づいて～
 講師 喜多方を漢字の町にする会
 会長 萩原 孝 氏



講話の様子

アンケート結果より (5段階評価)

○講話の評価は平均 4.5

漢字の仕組みや面白さに触れ、見識を深めると共に子ども達の学習につながると好評でした。

○グループ懇談の評価は平均 4.7

退職者の進め方の工夫により、現職者は充実した時間だったと回答。「悩みを聞いていただき励まされた。学校経営に生かしたい。」と記述しています。

参加者はほぼ全員の希望により、次年度も「講演とグループ懇談」の二部構成で進めます。

運営面では喜多方一小校長先生、職員の皆様に大変お世話になりました。心より御礼を申し上げます。



グループ懇談の様子

◎「たまり場」について

7月12日(土) 10:00~12:00
 喜多方市厚生会館にて開催。参加者 8名。

今回のゲストは菅井一良さん。「旅の話～台湾家族旅行」から、ご家族の思い出づくりの様子を楽しくお聞きしました。

その後は皆で貴重な情報交換。「こうした機会が有難い。」との意見がありました。7月のたまり場の様子



生活部活動報告

生活部長 鈴木 隆

昨年度に引き続き、令和7年度も「研修旅行」と「一年の健康を祝う会」の両事業を実施することができました。「研修旅行」は今年も新潟方面に向かいました。天気に恵まれ、有意義な時間を過ごすことができました。また、「一年の健康を祝う会」は和気あいあいと歓談し、楽しいひとときとなりました。ご理解とご協力を下さいました会員の皆様に感謝申し上げます。

1 研修旅行

10月17日（金）に10名で研修旅行に出かけてきました。新潟県の阿賀町方面に出かけてきました。

最初に親切なガイドさんの案内で阿賀川の溪流下りを楽しんで来ました。



阿賀川下りの遊覧船の中で

続いて狐の嫁入り屋敷を見学し、展示品や自然の景色を楽しみました。



狐の嫁入り屋敷前庭にて（背後は麒麟山）

最後に鹿瀬温泉でお風呂に入り、食事をしました。



参加者集合写真

今回も経費節約と機動性を重視し乗用車の相乗りとしました。身近な小旅行ということで、ゆったりとした時間を過ごすことができました。

2 一年の健康を祝う会

11月22日（土）に新丁子屋にて13名の出席者を得て、一年の健康を祝う会を開催いたしました。近況報告をそれぞれが行い、歓談しました。昔話、健康、最近の生活など話が尽きない楽しい会となりました。

クラブ活動報告

囲碁クラブ

代表 猪俣 薫

今年は会員のご逝去や自主退会、遠方へのご移転等々、大変な1年でした。ただ新たに入会していただけそうな方も出てきており、耶麻支部会員の皆様のご協力も得て来年へ期待しているところです。

冒頭から弱音の挨拶となりましたが、囲碁クラブの皆様は盤に向かえば真剣勝負。勝者の高笑いや敗者の涙は相変わらずです。今年（4～1月）の定例会の優勝者は以下の通り。

- 4月：高畑 睦雄 （敬称略）
- 4・10（金子杯）・12月：長谷川良三
- 4・5・9月：佐藤 定男
- 5・7・1月：齋藤 敬一
- 5・6・8・11月：猪俣 薫

昨年も説明したように、『置き碁』により初心者でも有段者と対等に打てます。最初に2～3の簡単なテクニックを理解していただければ、真剣（マジ）の対局を通じて腕を上げられます。そのいい例が長谷川会員です。2年前に入会されたばかりなのに、年



新春の戦い始め

一度の金子杯で2連覇されております。因みに私の新春の誓いは『打倒！長谷川』です。

グラウンドゴルフクラブ

代表 佐藤 定男

- 1 活動日
年末・年始以外の毎週、月・水の週2回
祝日は休み
- 2 活動時間・場所
夏季(4～11月)は、8:30～11:00の計画であったが、7・8月は熱中症予防のため、3グループに分けて活動時間を短縮できるよう工夫し10時前に終了した。
冬季(12～3月)は、9:00～11:00で例年通り実施した。
場所は、旧岩月中学校の校庭・講堂
- 3 その他
夏季はグラウンドの整備・除草も行なった。年会費1,000円(除草剤・灯油)

令和8年度グラウンドゴルフ活動計画
前年同様に活動したい。

- 1 活動日
年末・年始以外の毎週、月・水 週2回
- 2 活動時間・場所
夏季 4～11月 8:15～10:30
旧岩月中学校校庭 特設コート
冬季 12～3月 9:00～11:00
旧岩月中学校講堂 特設コート
- 3 活動内容
参加人数により3グループに分けて16コース2回活動
- 4 その他
年会費1,000円
除草剤や暖房用灯油
高齢者が多いので、昨年同様に熱中症予防に心がけて活動。
16コース2回で4,000歩も歩きます。

藤 宝 会

代表 菅井 一良

- ◎基本的に毎月第二金曜日に、佐藤定男氏宅にて宝生流小謡本を中心に実施
- ◎毎月第三水曜日は岩月公民館謡曲教室参加
「所は高砂のお～」のフレーズは、誰しも聞きなれた小謡(こうたい)の一節です。私達は、これを謡(うたい)といいます。会津では、昭和の終わりごろまでは、結婚式はもとより棟上げ式などの慶事、更には追善の法要、そして花見や宴会の席でも必ず謳われたそうです。長男のステータスとして、小謡の習得は必須であったと伺っています。

私は松山公民館の謡曲教室にも交えて貰っていますが、参加理由を尋ねてみました。

- ・従兄弟の結婚式で会津の謡を披露したい。
 - ・我が家の新築祝で棟梁の謡が格好良かった。
 - ・亡父が口ずさんでいた謡に興味を持った。
 - ・元来カラオケが苦手。謡ならばと。
 - ・腹から大声を出すのは健康に良いから。
- ※ 少しでも興味のある方、気軽に声をかけて下さい。

大人の遠足クラブ

代表 大堀 浄一

「小さな旅」、楽しみませんか?

「近くの史跡や旧跡、景勝地などを見たい」「隣街のイベントに参加してみたい」「身近な所への日帰り旅行を楽しみたい」等々の希望を持つ会員が集まって立ち上げたのが「大人の遠足クラブ」です。会は「会員の懇親を深め、健康増進を図る」ことを目的とし、これまで(主なもの)「旧日中線枝垂れ桜ウォーク」、「奥只見湖遊覧と清津峡見学」や「100万年前の会津へタイムトラベル」等の活動をしてきました。活動はバラエティに富んでいて、しかもとてもユニークです。これらは全て会員

からの発案や希望をもとに計画、実施したものです。

それだけに今後のためにも記録をしっかりと残しておくように心がけています。



旧日中線枝垂れ桜ウォーク

高齢者が多いので、実施にあたっては「普段の運動不足を解消し体力の維持・向上を図るような、ウォーキングや草花鑑賞等、自然と触れ合う活動を多く取り入れる」ように配慮しています。勿論、会員の健康状態や熱中症、クマ等への注意は欠かせません。

おめでとうございます

喜寿会員の皆様より

『0.7の壁』 大堀 浄一

退職してほぼ二十年。筋力、体力の低下を感じ、車をサポカーに替えた。それも束の間、高齢による白内障で視力が低下してきていることが分かった。固より強度の近視であったので「そのうちに0.7の視力を失い運転免許の返納をすることになるかも…」と諦めていたが、「ダメでもともと」の覚悟で手術を受けた。

2024年10月に右眼、4ヶ月後に左眼を手術した。視力は改善し、裸眼では見えなかった走る車のナンバーが読み取れ、メガネをしても見えなかった背炙山頂の風力発電機の数を数えることが出来た時は、これ以上ないほど

の嬉しさだった。これで『0.7の壁』は乗り越えられるはずであった。

ところが日を経るに従い、右眼の視力が落ちてきた。後発性白内障を発症したのである。

ガッカリ、また手術（YAGレーザー手術）、気持ちを取り直し3度目の手術を受けた。

甲斐あって10月に新しい運転免許証を手にすることが出来た。感無量であった。

「ダメでもともと」から1年かかったが、『0.7の壁』を乗り越えることが出来た。

神さまが恵んでくれたせつかくのこの機会、高齢ではあるが、これからもユックリズムのドライブを楽しみたいと思う。

日々是好日

始めて「てっぺんの賞」をいただいて

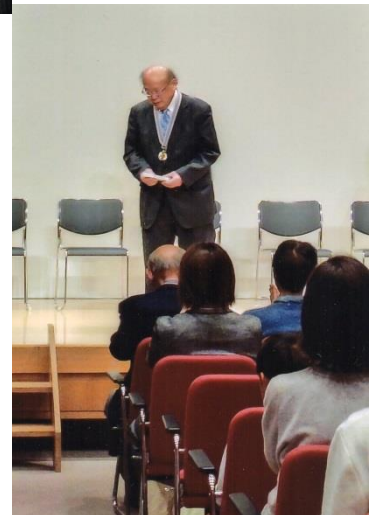
青山 邦夫



それは一枚のレターパックから始まった。

私は自分の趣味として、時々エッセイを投稿して地方紙に載ることもあり、その延長としてコンクールに出すこともあったのだが、今回もその「落選と次

回の応募の案内」程度のお知らせかなと思って封を切った。それが開封してみると何と「見事に大賞を受賞しました」の文言。自分でも信じられなかったが、その後、去年の10月下旬から年が明けての今年の



1月中旬まで、このコンクールの入賞関係で、東京での発表会(12月)、地元市長への報告会(1月)、奈良県での表彰式(1月)と、いろいろその準備も含めて完全に生活が変わった。



記念品贈呈式(全受賞者)

「はがきの名文コンクール」というその応募は今回で11回目を迎え、応募数が1万5千通を超え、結構応募数も多かったようだ。今まではたまに入賞しても「佳作」程度で、自分でも「佳作の青山」と称していた。

それが今回は、「青天の霹靂」のような出来事。自分で言うのも何だが、趣味を持ってそれを続けて来てよかったなと思っている。東京、そして奈良と真冬の旅行だったが、愛用の長ぐつは履かずに、雪の積もる会津から見栄を張って革ぐつを履いて、人があふれている都に上京した。それにしても東京は人が多い。

脳を鍛えるなら紙の本？

長澤 健治

現職時は時間が取れずに手を出せなかった家のリフォームに退職後やっと手をつけた。しかし、家以上にガタがきているものに気づいた。我が身である。年を重ねれば大なり小なり問題が起きるものだが、一番の心配の種が「頭」である。

人の物忘れを笑っていた自分が、最近はや物の名前がすぐに出てこないばかりか、行動の合間に別のことをすると、そもそもの用事が思い出せない始末。

ある言語脳科学者によれば「脳は紙の本でこそ鍛えられる」らしい。いつの間にか隅に追いやっていた読書だが、暇つぶしには持って来いなので、早速取り組むことにした。

学校が苦手な私は、退職時に教育関係を中心に何百という書籍を思い切って処分した。

改めて物を増やすことに抵抗があるものの、電子書籍では何か違う。そこで、場所を取らない文庫本にした。書店を巡り、本を選ぶ楽しさも思い出してきた。

今は、ある作家の全作品読破を目標としている。映画化、ドラマ化されているものも多いので、「読んでから観るか、観てから読むか」も楽しみのひとつである。

著作数が百を超える現役の作家だが、自分の「頭」が何とかならないうちに目標達成したいと思っている。

学校で学び地域で育つ慶徳の子

小澤 義喜

私は慶徳ふれあい館の館長として、公民館の機能である「つどう・まなぶ・むすぶ」を大切にしながら地域の活性化に努めています。

『学校で学び地域で育つ慶徳の子』をキャッチフレーズとして「地域の子どもたちが、おらが町慶徳に自信と誇りが持てるように・地域の文化財が継承されるように」との願いを込めた地域連携事業に重点を置いた活動を展開し、令和5年2月『第75回全国優良公民館文部科学大臣表彰』を受賞しました。

主な取り組みとしては、慶徳稲荷神社御田植祭での早乙女踊りです。日本北限の神事として530年以上の歴史と伝統がある御田植祭は、メインの早乙女踊りの復活に向けて、平成20年から小学校に呼びかけ、保存会や小学校、公民館が一体となって活動し、国の重要無形民俗文化財に指定されました。今も重要性を再認識しながら頑張っています。

第二は、慶徳！スポーツアカデミー運動教

室です。陸上競技を基本にゲーム等も取り入れながら、運動の得意な子どもも苦手な子どもも、楽しく運動に親しみながら体力や技能の向上に努め、楽しみながら活動しています。

第三には、**地域の文化財巡り**です。慶徳地区には伝統文化や歴史的建造物等が多数存在しています。毎年6年生を対象に現地に出向いてのふるさと再発見事業として好評です。

子どもは地域の宝物です。これからも生涯学習の中核として、地域作りの拠点として、微力ながら活性化に貢献しようと思います。



神田での早乙女による田植え風景

教育の現場から

本校の特色ある取り組みと

諸課題への対応

喜多方市立慶徳小学校

校長 久保田 義 春

令和5年度に創立150周年を迎えた伝統と歴史のある本校は、令和7年度の全校児童数が50名のいわゆる小規模校です。少人数のよさを生かしながら、「やってみよう」を合言葉にし、「自己マネジメント力の育成」を研修のテーマにして取り組んでいます。また、慶徳小学校の強みである、「地域との力強い連携」では、国指定の重要無形文化財である「慶徳御田植祭」に公民館や地域の保存会の皆様と連携して取り組み伝統を守り、引き継ぐ慶

徳の子の育成を図っています。さらに、慶徳公民館長様を案内人に、地域の文化財を巡り、それぞれの地域の先生から、地域の歴史と文化、そこに暮らす人たちの思いを学び、郷土愛を深めています。福島で育ち、福島に誇りをもつ子ども達の育成のために、地域と協働・連携しています。

農業科の活動や学校花壇づくりの取り組みも活発であり、特に学校花壇づくりにおいては、令和7年度花いっぱいコンクールにおいて、最高賞である福島県知事賞を受賞することができました。30平米の花壇と42個のプランターを、児童と職員で苗植え、除草、水やり、植え替えなどを行っています。また、公民館と連携して、慶徳地区生活支援支え合い会議の活動に参加し、地域の花の苗植えを行ったり、公民館や郵便局などの施設へ、育てたプランターの花を届ける活動にも継続して取り組み、地域との絆を深めています。

熊被害予防や熱中症予防対策、さらに、近年の全校児童数の減少など、課題も少なくはありませんが、地域の方や保護者の方と協働・連携していくことで、ピンチをチャンスに変えることができると考えています。入学式で、6年生が歓迎の言葉の中で、7名の新入学児童一人一人に、それぞれの良いところを伝え、迎えました。また、喜多方市交通安全鼓笛パレードに、全校生50名で参加し、短い隊列を生かして、まとまったすばらしい演奏をしました。これらは、少人数をチャンスに変えた瞬間です。これからも、「慶徳小だからできること」に、子ども達と保護者と地域の方と職員が一丸となり、取り組んでいきたいと思っています。

事務局 だより

庶務部長 馬場 俊忠

令和8年・午年がスタートいたしました。

会員の皆様方におかれましては、干支の馬が力強く前に進むような躍進の一年となりますようご祈念申し上げます。退職校長会耶麻支部の今年度の事業も残り僅かとなり、次年度にウマく繋げられるよう事務局員一同知恵を振り絞って参ります。

今年度は4月12日、新丁子屋において26名参加で行われた総会に引き続き、20名参加の懇親会からスタートしました。6月10日には県公立学校退職校長会会津大会が初めて南会津町御蔵入交流館で開催されました。本支部からは阿部支部長はじめ14名が参加しました。会場が遠方でもあり運営は南会津支部の役員が中心となって、会津他支部からの役員協力は少ない大会でした。講演では教育関係とは少し離れた視点から、焼酎造りを中心として活動されている合同会社ねっか代表の脇坂さんが「米焼酎ねっか 只見で生き抜く」と題して行いました。全体を通してESDやSDGsを意識した大いに盛り上がった大会となりました。

新入会員が少なく、運営が厳しい状況となっているのは本支部だけではありません。新役員体制で活動して1年ですが、耶麻支部のこれからを考えていくと、規約改正を含めて、変えていくべきところが少なからずあるように思われます。会員の皆様方からご意見等をいただきながら、できるところから進めていきたいと考えております。今後も引き続きご指導、ご協力をよろしくお願いいたします。

《 編 集 後 記 》

広報部長 吉田 佳正

今年は、今のところ急なドカ雪がないため、除雪の遅れによる『陸の孤島』状態もないまま過ごせています。しかし、冬に一度は新聞や郵便も届かず、停電になり、車での外出が

不可能になることがあるものと日々怯えながらの毎日です。積雪の多い中山間地という環境の下で、毎年広報紙の編集作業をしていると、今年は原稿が届かない日があったりするのではないかという強迫観念にも似た精神状態に置かれてしまうことの繰り返しなのです。(愚痴はここまでにします。)

さて、会員の皆様のお蔭様をもちまして、今回もここに、会報「やま」をお届けすることができ、広報部としてもホッとしているところです。原稿を執筆してくださいました方々には、この場をお借りして心から御礼申し上げます。また、今回、大堀浄一様には「クラブ活動報告」と「喜寿会員の皆様より」の2つの原稿を書いていただくことになり大変心苦しく感じております。本当に有り難うございました。更に、小澤義喜様と久保田義春校長先生にはそれぞれの立場から執筆いただきましたが、同じ地域であるために「早乙女踊り」等、話題が重複する結果となってしまいましたこと、反省点とさせていただきます。原稿を依頼する側として、今後に生かしていきたいと思っております。

広報部といたしましては、今後とも紙面の充実・発展に向け、取り組んで参りますので、書いてみたい事や書いてみたいお気持ちをお持ちの方は、ぜひ、広報部までお知らせください。また、原稿執筆の話(依頼文)がきた場合などには、奮ってご協力のほどよろしくお願いいたします。

~~~~~

○ クマの出没ばかりが話題となっていますが、イノシシの出没も多いようです。我が家のまわりでは、キジも多く見られます。



田んぼの中のイノシシ



樹木の根元に蹲るキジ